

# 教育センターだより



情報処理教育研修講座より

## も く じ

「資質の向上」三つのこと .....	2
委員会の動き—その2 .....	3
秋田県教育研究発表会 .....	4
全県理科研究発表大会 .....	5
随想・テクノクラート・久原房之助 .....	6
短期研修員の研修テーマ・氏名一覧 .....	6
パソコンに受講希望殺到・受講者の声 .....	7
お知らせ・編集後記 .....	8

— 第 38 号 —

昭和62年2月14日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号  
☎ (0188) 32-3594

## 「資質の向上」LINENYU

秋田県教育センター所長 山岡雄平



## あたたかさと感性

「教員の資質向上」とはよく言われる。しかし、そこで言う資質の内容は必ずしも明確にされていないことが多い。それに説得力を持たせるには、やはり子供たちの実情に即して、現在期待され求められているのは何か、という点から洗い直しをしてかかる必要がある。

昨年秋の「豊かな心を育てる県民大会」は感銘深いものであった。子供たちのすばらしい感動体験発表を聴きながら、私は今更に改めて思うことがあった。周りに大自然があれば、そのままでは感動に誘い込まれ、行事に参加すれば、それだけで心が湧き立つのではない。最も大切なのは、そうした感動する心や感情の広がりを耕やし、揺

さぶり出す働きかけをする存在である。その役割はやはり人間の力によるしかない。子供たちの心に、その大自然や状況にどういう向かい方をし、心を開いていくかへの揺さぶりがかけられていなければ、何事も、心に豊かさや刺激を与えるものになりにくいはず。その意味で、私は日ごろの先生方の、あの子供たちへの適切なかわりのほどが想像されて快かった。

こうした、子供の中に潜んでいる心の芯に点火し、心のメカニズムを変えて感動の世界に導くものはもちろん理屈ではない。教育愛とか使命感をも超えた、教師の人間としてのあたたかさや感性であるように思える。最も望まれるものの一つだろう。

見つめると見つめ直す  
ものごとを理解する手だてに「見る・見つめる・見つめ直す」の三段階があるとすれば、教育指導は「見つめる」ところから始まる。一人一人の子供に

いい意味での興味を持つ、その言動に広い意味の好奇心を持つ段階である。そして試行錯誤しながらも、一人一人に即した指導のカリキュラムを用意して当たるのが「見つめ直す」である。とかく平常、ただ漫然と「見る」段階で終わってしまう。そこに、目立たない生徒が目立たないままに放置されたり、小さな出来事に大きな意味を見出すことに鈍感な状況がつけられる理由がある。

現在、学校教育が問われているものの一つは、一人一人に即した適切な生徒理解の機能の回復である。そして、それによる学校・教師自体の自信回復と毅然たる対応への期待であろう。

それは、子供たちに真の意味で興味や好奇心を持てる「見つめる」「見つめ直す」資質の錬磨に求められるところが大きい。しなやかさとたくましさ

全国的に、登校拒否等の学校不適応、学習不適応の現象が増える傾向にあるという。県教育センターで受理した教育相談(61・4月～12月末)も、来所相談では総数の27・9%、電話相談では総数の30・1%が登校拒否等で占められている。精進の

未熟性による不適応ととれる場合が目立つが、原因の根は深い。

人間がうまく適合していくためには、まず自分の内部に目を向けてコントロールする方向ともう一つは、自分の適応を阻害する外側の状況をコントロールして行く方向とがある。問題は、この外側に向かう子供たちのエネルギーを学校・教師がどう受けとめ、どう保障していくか。ひいては、どれほど子供たちと共に変容する柔軟性を持ちうるか。これからの学校教育に問われているように思う。

子供が現在の学校教育の体質に適合しないからというので、単にこれまでの体質・体制にそつた指導を強化するというのでは、ますます不適応現象は増大する。そのためにもまず、子供たちをそのままに受けとめ、認めることから始めることであろう。そうすれば、学校・教師がどう変わらなければならぬか見えてくるに違いない。

対象の変化に敏感に反応出来るしなやかさ。その中で本来の在り方を見失わず選択・創造出来るたくましさ。これからの教師にますます求められるものに違いない。

## 委員会の動き…その2

### 研修講座に関する調査を実施

(研修講座研究委員会)

この委員会は、センターの講座の在り方を広い視野に立って検討するため、年度途中から検討されたものである。第一の検討課題として、現在の講座運営について、各小・中・高・特殊学校がどんな要望を持ち、又、講座の種類や受講の手続きについてどの程度理解してもらっているかなどの問題を取り上げ、これを「教育センターの研修講座に関する調査」として実施した。委員会では、その結果を集計、分析の上、十月に、結果の要約と、質問文及びその集計表から成る報告書をまとめたが、この中で明らかになったことは、①受講者決定の仕方を改善すること。特に、教育事務所推薦の講座には、学校の規模や必要性、職員構成などを考慮してほしいという学校現場の声が強くでていたこと。②希望講座への職員の参加がなかなか容易でないこと。特に、校内で、「講座案内」等が十分活用されていないこと。このことから、委員会では、

推進 講座の性格を明瞭にすることや講座案内の改善について具体的検討を重ねている。

### 教育相談の研究と運営

(教育相談研究委員会)

機構改革により、本年度から教育相談を教職研修部と特殊教育研修部の二つの部で担当している。

これが、一つのまとまりとして力を発揮し、これまで以上に広く県民にサービスできるような運営をしたいという趣旨のもとにこの会が設けられた。

昭和61年12月末現在の教育相談受理件数は408件に達し(昨年同期387件)多少増加の傾向にある。相談内容は登校拒否が最も多く、十年近くこの傾向が続いている。

登校拒否の中には社会問題となっている「いじめ」にからんだものもあり、その態様は様々であるので、個々の対応の仕方についてはもちろんのこと、研鑽を重ねる場としている。

そして、なによりも情報交換、意見交換を積極的に行い、両部の連携を密にし、教育センター全体としての教育相談機能を高

めることを目標にして、今後出来るだけ研究協議の機会を多くもち、現場に役立つ研究を進めていきたいと念じている。

### 教育センターの積極的PR活動

(広報委員会)

当委員会は、「要覧」「教育センターだより」の発行などの広報活動を行うほか、教育庁内の広報担当との連絡調整に当たるのが主務である。本年度新生教育センターをよりよく理解していただくために二つの方策を採った。まず、「教育センターだより」を昨年度まで一校当たり一部配布していたのを改め校長・教員全員に配布することに踏み切った。予算削減の折、困難をともなったが、各学校からの喜びの声を聴き、励まされている。

又、「教育センター利用のしおり」を手刷りで作成した。研修講座や教育相談に來所の教職員、一般の方々に差し上げているが、図書・資料のコピー・サービスを電話でも受付けていること、教育相談・電話相談をしていること、教育センター計画の研修講座のほかに学校やグループ等の自主研修講座ができる

こと、低料金で宿泊ができることなど分りやすくまとめ、先生方へ教育センターの幅広い活用を呼びかけている。

### 価値ある教育情報の提供

(図書資料委員会)

図書資料委員会の主な業務は(一)教育図書の購入、(二)教育研究資料の収集・整理、(三)全国教育研究所連盟刊行図書の紹介、普及、(四)教育研究資料件名目録の刊行、(五)レファレンスサービスなどである。

教育図書は現在までに七千冊を越えているが、所員の購入希望図書を募り、これを参考に購入している。本年度は情報処理研修部の発足にともない、コンピュータ関係の図書も多量に入り、活用された。レファレンス件数はこれまでに五百件近くあり、係はこの処理に多忙を極めている。

又、件名目録の他に学校経営や生徒指導の分類目録を作成しすみやかに情報を検索できるようにした。更に、秋田県教育史編さんのために収集された五千点近い資料の管理運営に当たっている。

# 所員十名が発表

## 秋田県教育研究発表会開催



昭和61年度秋田県教育研究発表会が、二月五日(木)、六日(金)の二日間、秋田県生涯教育センター並びに児童会館を会場に開かれた。発表件数は62件の多きに及び、そのうち当センターからは9件の発表があった。現場の先生方に示唆を与える内容の

発表が参会者の共感を呼んだ。記念講演は、筑波大学教授の永岡順先生が「教育改革の方向とこれからの学校教育」という題で広い視野に立ったお話をされ、会場を埋めた教育関係者に深い感銘を与え、意義のある研究発表会であった。

### 秋田県教育研究発表会における所員の研究発表

(主題・発表者)

小・中学校における学校教育目標と共通研究主題について

教職研修部

中学生の学校生活に関する意識についての調査研究

教職研修部・長期研修員 赤上 清

児童の自己指導力を育てる一つのころみ

教職研修部・長期研修員 大川 昭子

中学校における個人差に応じる学習指導

学習指導研究委員会

高等学校英語学習における言語活動指導の研究

教職研修部・指導主事 今野 鴻業

理科薬品の管理と廃薬品処理について

教職研修部・指導主事 安田 貞則

粘土の特性をふまえた造形学習

教職研修部・長期研修員 岡 強三

教育用ソフトの共同利用計画について

情報処理教育研修部・指導主事 椎名 政光

情報処理教育研修部・指導主事 佐々木 睦男

情緒障害を併せ持つ脳の機能的障害児の指導

特殊教育研修部・主任指導主事 藤村 政俊

# 高校の発表数倍増

第21回 全県小・中・高等学校児童・生徒理科研究発表大会 昭和61年11月5日～7日



本年度も当教育センターに  
場に、県教育研究会理科部会と  
県高等学校教育研究会理科部会  
との共催で11月5日より7日ま  
で小・中・高別に行われた。  
特に本年度からは、財団法人  
齋藤憲三顕彰会から協賛を頂き、  
各テーマごとに全県大会出場の  
記念品が贈呈されることになり  
それぞれ部会長から賞状・バッ  
チと共に手渡された。身近な素  
材を取り上げたもの、数年間継  
続したもの、方法のユニークな  
ものが多く立派な発表であった。  
児童・生徒の個性と能力を伸  
長し、豊かな人間性の育成を図  
っている先生方の御指導のたま  
ものである。  
発表題と学校名は下記の通り。

小 学 校 の 部		中 学 校 の 部		高 等 学 校 の 部	
かたつむりっておもしろそうだな	花 輪	障子紙の研究	大曲第二	寒剤と水	増 田
天気図から天気のみみつをさぐる	"	西根地区のプランクトンの研究	大川西根	川のあかに含まれる主な微生物	鳳
でん粉のかんさつII	"	中川の地層 その2	中 川	ワラジムシの生活と環境	横手南
水のすきなカタツムリ	大 湯	カプトムシの食べものについて	横手南	浸透作用の研究	"
一本木神社のアリの観察	"	植物の吸水量調べ	横手北	笹には防腐作用があるか	十文字
すずめのかんさつ	東 館	水の抵抗について	前 田	十文字町における粉塵の研究	湯沢北
紙と植物の皮	大館南	葉をとじる草花の研究	福 地	水溶液の温度変化について	"
アサリはどのように砂をだすだろうか	桂 城	東沼の調査	朝 倉	磁石の力	須 川
コンクリート校舎にできた鐘乳石の研究	亭城第二	アマガエルの研究	湯沢東	微生物の研究	稲 川
電磁石の研究	水 沢	ヒメダカの色についての実験	上 到	ダニエル電池の研究	湯沢南
種の旅	"	流水のはたらき	三 輪	川原毛・高松毛の研究	山 田
ひまわりのかんさつ	船川南	ナメクジの研究	川 連	学校周辺の植物の観察	
植物のつるの研究	"	教室のゴミの研究	三 三	(以上 32題・23校)	
ありの観察	協本第一	クモの観察 PART III	三 三	高 等 学 校 の 部	
すず虫の育ち方の観察	船 越	皆瀬川の石の研究 その2	三 三	タンポポの研究	米内沢
鉄はどんなときにさびるか	戸 賀	(以上 51題・39校)		田代町のコオモリのコロニーについて	鷹巣農
メダカの好きな色調べ	大 湯	中 学 校 の 部		秋田県の海岸堆積物についての研究 その2 礫について	米内沢
校地とそのまわりの地域の植物のちがいを調べる	弘 戸	十和田湖のイトヨの生態研究	小坂十和田	秋田県の海岸堆積物についての研究 その2 砂浜の貝類について	男鹿工
さびの研究	飯田川	十和田湖大川岱地区の水草について	"	由利海岸の海藻の化学成分の研究 主にハロゲンと色素について(第5報)	"
かげの長さとお日さまの動き	八郎湯	十和田湖の水質検査	"	由利海岸の海藻の化学成分の研究	本 荘
井川の水生物と川の汚れ	井 川	種子の発芽の研究	大館東	西目町海土割の風成砂層について	"
だんごむしのけんきゅう	中 通	どじょうの研究	"	茎頂培養による無病苗の大量生産実験(第1報)	西目農
ひまわりのひみつ	四ツ小屋	桧山川の水質調査	桧 山	象潟地区のコオモリの分布について	仁賀保
季節の変化とチョウ	大 住	サインペンの色素	御野場	鳥海山北麓由利原の地質的研究	"
折った紙の強さ	秋大附属	エゾタンポポが減少する原因の追求	外旭川	鳥海山麓象潟由利原の地質模型	"
六年間のチョウのまとめ	"	本荘市中央部にみられるタンポポの分布と環境	本荘南	能代浜海水水質の基礎調査	能代北
あさがおのはなのひらきかたとしばみかた	鶴 舞	本荘市の鳥類の生態	"	東部仙北地方におけるタンポポの分布について	大曲農
青虫からちょうになるまで	"	高城山の地質	矢 鳥	植物の電気的調査(その1)	太田分校
運動と脈はく・体温の関係	"	矢鳥町の河岸段丘と土器の分布について	"	シダレザクラの研究	角 館
ナメクジの研究	平 沢	石沢地区の水生物	石 沢	コオロギの生態研究	"
塩の研究	新 山	化石の個体数と当時の環境の推定	大 内	発光ダイオードについて	"
土を調べる	"	トビケラの巣の役割について その2	中 仙	六郷の清水の化学分析と生物調査	六 郷
雲と風と天気しらべ	大 曲	神岡町地域の河岸段丘の研究	和 郷	(以上 18題・10校)	
ヒメダカの日なたと日かげ	"	地層中のテヘラ(火山噴出物)の研究	南 曲		
かまきりの行動調べ	大曲第二	つるまき植物のまきひげについて	大 曲		
		アワフキムシの生態研究	"		
		植物に含まれる色素のちがいによるさまざまな反応について	"		

明治三十一年、藤田組（同和鉱業の前身）の経営する小坂銀山は暗雲に覆われていた。

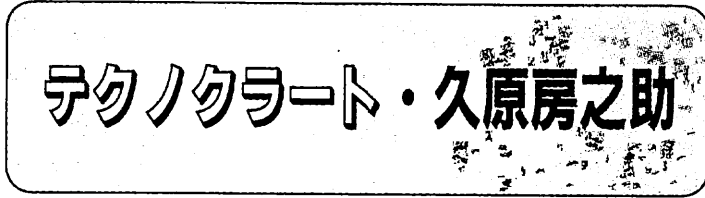
当時は日清戦争後でもあり、わが国の経済は厳しい不況に見舞われていた。銀の価値は、金本位制が近づいたため、三割も暴落し、国内の各銀山は深刻な経営難に陥っていた。

小坂銀山の場合、原鉱石の土鉱の残存量も少くなる一方で、その命脈はまさに絶えようとしていた。ただ、利用価値のない（製錬不能）黒鉱だけは多量に残されていた。

かかる状況下、従業者七千余人を擁する小坂鉱業所長に、久原房之助が二十八歳の若さで抜擢されたのである。同鉱業所の幕引きを目前にして。

彼は閉山準備は一切行わず、黒鉱製錬によってのみ、小坂鉱業所の再生を信じ奔走する。やがて彼の熱意は大阪本社を経営陣と顧問格の井上馨の心を動かす。しかし、黒鉱はその製錬法が

### 随想・リレーコーナー



秋田県教育センター教科研修部長 齋藤 實 則

難しく、当時世界最高の技術者といわれた、ドイツ人技師ネットワークでさえ、手に負えないとした代物であった。

そこで、久原がまず行ったことは、鳥根県大森鉱山（石見銀山）から、新進の技術者であった武田恭作を製錬課長に迎え、次いで、

東京大学鉱山冶金学科で卒業論文に黒鉱製錬を選んでいった竹内維彦を入所させている。

ここで驚かされることは、経営的にも苦しいこの火急の時期に、黒鉱製錬研究の中心的人物である武田をヨーロッパの鉱業視察に長期間派遣していることである。ここに、久原の真骨頂を見る思いがある。

武田の不在期間中、竹内はあらゆる知能を振り絞り、技術に徹し、黒鉱製錬に取り組む。その時の係員が青山隆太郎である。青山は阿仁の坑夫から身を起し、常に身をもって範を垂れ、後年、立鉱業所の副所長にま

なった異色の人物である。

彼は炉に付き切りで、勤務時間など超越してというよりは、夜を昼につなぎ、工夫に工夫を重ね、黒鉱製錬に挑むのである。

そして、明治三十三年、遂に小坂鉱業所の技術陣により、黒鉱自溶製錬法の開発に成功するのである。この黒鉱自溶製錬法の確立によって、小坂鉱業所は銀山から銅山として復活し、世界に誇る黒鉱研究・銅製錬のメッカとして栄える。

当時、小坂鉱業所には、久原房之助のもとに、前記武田恭作（後大日本鉱業社長）、竹内維彦（後日本鉱業社長）、青山のほかに、小平浪平（後日立製作所創設者）、田中隆三（後文部大臣）、池田謙三（後秋田鉱山専門学校長）、米沢万陸（後日立鉱山副社長）などの人材が薙ぎ合っていたのである。

そして、彼等の薫陶を受けた藤田組の技能者たちは、発電所の建設、小坂鉄道の敷設、元山の露天堀りなどの事業を次々に成功させながら、わが国の鉱業界をリードして行くのである。今から、八十五年も前のことではある。

### 短期研修員の 研修テーマ・氏名一覧

- 基本的な生活習慣を身につけ、すすんで実践する子供を育てて
- 矢島小 高 倫 勝
- 夏休み一人一研究の進め方
- 花輪二中 和田 祐二
- 生徒と父母の進路に対する意識調査
- 浅舞小 柿崎 英作
- 学校における教育相談活動の定着化について
- 大館工高 越前谷 哲美
- 作問指導の一考察
- 西馬音内小 最上 崇子
- 複式学級におけるひとり学びの指導についての一考察
- 大阿仁小 佐藤 高義
- パソコン学習に関する指導資料の作成
- 金足農高 泉 雄孝
- 言語発達遅滞児のことは育てる効果的指導はどうあればよいか
- 湯沢西小 鈴木 進
- 自閉児のコミュニケーションに関する指導
- 秋田養護 大日向 邦彦
- 勤労体験学習と道徳の時間の関連
- 田代中 北 正久
- 望ましい友人関係を育てる学級指導
- 八郎潟小 工藤 常子
- 本校生徒の学業生活についての意識と実態調査
- ニツ井中 古川 弘昭
- 児童の思考を深めるTP教材の製作
- 大曲小 小松 道典
- パソコン利用環境整備についての一考察
- ニツ井高 梅田 満
- 家庭環境のゆがみによる登校拒否の事例
- 雄和中 戸嶋 邦和
- 長距離走の指導に音楽を用いた時の効果について
- 舞学校 齋藤 光春

# パソコンに受講希望者殺到

## 昭和61年度 研修講座実施状況

昭和61年度は、教育センターの機構改革による新しい体制の発足の年に当たり、教職22・教科33・情報処理教育16・特殊教育7合計78の講座を設けて、時代の求める新しい研修内容の展開に踏み切った。パソコン関係講座の大幅な拡充、道徳教育・特別活動講座の新設等に特徴をとらえることができる。受講実人数287名で県内総教職員の25%、ほぼ4人に1人が受講している。

特にパソコンには受講希望が集中し、やむを得ず調整しなければならなかった。しかし、必要に応じて自由に受講できる希望(C)講座の受講率に校種・地区別の落差があり、この点で趣旨の徹底が今後の課題となっている。

昭和61年度 研修講座実施状況 (1月現在)

研修部	講座数	講座日数	受講実人数					受講延人数					欠席件数					欠席延人数				
			小	中	高	特	計	小	中	高	特	計	小	中	高	特	計	小	中	高	特	計
教 職	22	61	806	398	263	47	1514	1993	992	745	127	3857	33	33	19	1	86	59	51	38	1	149
教 科	33	76	326	255	189	2	772	622	524	316	4	1466	13	20	7		40	21	33	12		66
情報処理	16	72	115	84	189	15	403	357	257	570	45	1229	23	10	18	2	53	36	13	31	3	83
特殊教育	7	23	80	38		40	158	261	115		133	509	13	7		8	28	18	10		13	41
合 計	78	232	1327	775	641	104	2847	3233	1888	1631	309	7061	82	70	44	11	207	134	107	81	17	339

わたしたち音楽教師は 年に何度か人前にでて指揮をしなければなりません。いつも何とくまびしい仕事だろうと頭を悩まします。

去る六月十七、十八日の両日にわたって行われた音楽科研修講座は、発声法、合唱指導法、課題曲の演奏法、指揮法等の研修内容で三人の先生によって行われました。皆で声を出しながらの講座は久々に満足いく内容で大変ありがたく思いました。

聖霊女子短大の渡部先生からは、正しい声楽指導で実に魅力的な声になるという実践例をきくことができました。美しい磨かれた声は、正しい練習によっていくらでも啓発、発展させることができますというお話から、以前にもまして声楽の勉強の必要性を強くしました。センターの小林先生からは、声作りについて、更にはそのことを踏まえての演奏法について、又、指揮法にいたっては、ステージでは時計など光る物は取りはずすべきことなど、実に耳よりな

**受講者の声**  
**美しい合唱を求めて**  
湯沢南中学校教諭 藤原 浩子

お話をきくことができました。それ以来、受講して得たことを頭におきながら授業や部活動に生かしていることはもちろんのこと、ステージでも役立てています。須川中学校教頭加藤先生からは、前任校の湯沢南合唱部を指導されて三年連続全県一にするまでのお話をおききして、そのたゆまない努力に感服させられました。今後の部活動のめざすべき方向を御教示頂いたことは何よりである。又、先生の合唱の歴史を克明にのべられた資料も大事にしたいと思います。

講座が終わって家に帰る途中、わたしは、長年にわたって、すばらしい合唱づくりをしてきた講師の先生方を思い浮かべ、その先生方が、わたしたちのすぐそばにいます。ことに感激したものです。コンクールに関係なく、もっと多くの人に受講してほしい講座であると思いました。次回の講座では、更に、新たな感動をみつけ、以前にもまして素適な音楽活動ができるようにしたいものです。

## お知らせ

## 新しいニーズへの対応

— 62年度新規研修講座の紹介 —

昭和62年度の主な新規研修講座の概要は次の通りである。

- 一、小・中学校学校図書館研修講座 情報化時代の学校図書館の在り方について研究する。
- 二、小・中学校パソコン上級研修講座 本年度の中級を受けてプログラム作成技術の向上をねらいとする。
- 三、小学校C A I基礎研修講座
- 四、中学校C A I基礎研修講座

- 五、情報通信技術研修講座（小・中・高合同） 将来のオンラインネットワーク化のための基礎技術の習得をめざす
- 六、情報処理教育指導法研修講座 高校の情報処理教育指導の充実をねらいとする。
- 七、情報処理教育数学系利用研修講座 高校の教科に関するコンピュータ利用の充実を図る
- 八、小・中学校教育相談初級研修講座 教育相談の基礎的知識

・技能の習得をめざす  
講座は原則として、2日間を単位とし、学校の打合せ等にも配慮して月曜日を避け、火・金曜日に実施することになっている。情報化社会の変化に適切な対応を求められている昨今、研修の必要性がますます高まることになろう。本センターでは、新しいニーズに即した研修講座の開発に努めている。

## 本年度刊行物

○中学校における個人差に  
よる学習指導の進め方

学習指導研究委員会では、本県の当面する学習指導上の課題について取り組み、その成果を指導資料としてまとめた。

この度もその一環として、標記のテーマに取り組んでいる。

現行の学習指導要領は、生徒の個人差に応じた教育の推進を一層重視し、教育内容の精選や教師の創意・工夫等により、多様な個性や能力を持つ生徒に対し、きめ細かな指導を行う必要性を強調している。

そこで、個人差に応じる学習指導のねらい、個人差に応じる学習指導の受け止めかた、学習指導で、生かし応じるこ

とのできる個人差、個人差に応じる授業の進めかた等の視点から学習指導について考察を試みた。

学校現場で、個人差に応じる学習指導への理解が深まり各校の創意・工夫に満ちた実践に役立てていただければ幸いである。

○中学校理科実験・観察カード

本カードは、理科学習を効果的に指導するために必要な資料をカードにまとめ、ガイドとして作成した。内容は、

- 一、革新的測定器具の取り扱い
- 二、薬品の分類、整理と管理
- 三、プレパラートの製作・顕微鏡等の操作
- 四、秋田県における2、3の地域の地質層序

等である。活用を期待したい。

○研究紀要 第18集

当センター所員は個人や共同で研究を進めている。その分野は学校経営、学習指導、教育相談、情報処理、進路指導、特殊教育等多岐にわたっているが、いずれも教育課題に即応したものである。この研究紀要は所員の日ごろの研究成果を収載したものである。教育実践の資料として活用され、教育研究の一助となれば幸いである。

○自主研修・移動講座・公開講演の案内

○自主研修 本教育センター所管の研修講座以外に、地区又は学校・研究団体等を単位とする自主研修に対して本センターを開放し、御利用いただくもので、要請があれば職員が講師として指導に当たっています。

○移動講座 地域の要望にこたえ受講者の便宜を配慮して本センター以外の会場にも開設している講座で、教育相談初級講座等があります。

○公開講演 研修講座にお招きしている所外講師の講演の中でいくつかのものを、講座受講者以外の方々にも聴講できるようにしました。詳細は後日、別の機会にお知らせします。

以上、講座案内を御覧の上、多数の御利用と御参加をお待ちしています。

## 編集後記

教育センターだより第38号をお届けします。機構改革でスタートしてもう一年。いかがでしたでしょうか。

親しみやすく、開かれた教育センターをめざして、明日も又、がんばります。